ごうちゃんねる（GO-CHANNEL）　2023/10/10

テロ攻撃にさらされたイスラエル

東住吉キリスト集会　高原 剛一郎 氏

✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡---✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡

お元気ですか。高原剛一郎です。今日は、イスラエルに対するハマスの大規模攻撃について、緊急で動画をアップします。
10 月 7 日・ 8 日・ 9 日の 3 日間、私は自宅を留守にしておりました。ある所で、泊りがけの聖書研究会に出てたんです。その初日に、ハマスによるイスラエルへの大規模攻撃があって、もう私はすぐにでも動画をアップしたかったのですが、できなかったんです。今日は 9 日。家に着いてすぐ、この動画を撮っております。

10 月 7 日、イスラエル時間の朝 6 時半に、2000 発のロケット弾が撃ち込まれたんですが、このテロ攻撃は今までにないテロ攻撃でした。
何が今までにないのかというと、ロケット弾じゃないんです。
今回はテロの戦闘要員がイスラエルとの国境を突破して、1000 人以上がイスラエルの本土領域の中に侵入したんですね。どこから侵入したのか。陸海空の全部です。

陸では、ガザ地区とイスラエルを隔てているフェンス／国境の壁がありますが、それをブルドーザーでぶっ潰して、トラックに乗り込んだテロ要員たちがイスラエルの中に入って来ました。海からは、テロリストを満載したボートがイスラエルの海岸に上陸し、そこでテロ攻撃を始めたんです。空からはパラグライダーですよ。
フェンスを飛び越えて、イスラエル領域に入ってテロをやった。

今回のテロ作戦は練りに練った戦略・戦術でした。
実はこれら一連の侵略行為の前に、ガザ地区の近くにある 20 数か所のイスラエル軍の拠点が麻痺していたのです。最初にそこにロケット弾が撃ち込まれたり、特殊工作員たちが入って、それを無効化することに成功していたんですね。
なので、ガザで大きな問題が起こった時、イスラエルの兵士たちがすぐに駆けつけることができなかったんです。

1000 人以上のテロリストは、イスラエルに入って何をしたのか。
一般の国民の民家に入り込み、住んでいる人たちを引きずり出し、殺し、凌辱し、生け捕りにして、ガザに連れて行ったんです。

この時、ガザの近くの砂漠地帯でピース･ミュージック･フェスティバルがあって、3000 人くらいの人たちが集まっていたのではないかと言われていますが、そこにもテロリストが侵入し、銃を乱射して、何百人もの人たちの遺体が見つかりました。
そして、そこで生け捕りにされた人たちがガザに送り込まれたんです。
その中には裸にされた女性たちがいます。また 5 歳・ 6 歳の男の子や女の子が連れ去られ、そんな小さな子供たちを前に、「彼らは我々の性奴隷になる」と笑って言っているテロ要員がいるんですね。亡くなったイスラエル兵士の遺体もガザに連れ去られ、そこで足蹴にされたり凌辱されて。

もうどこまでやるのか、どこまで残酷なことをするのか。
人間がすることじゃないというようなことをやっている。
しかも、これを自分たちで撮影してSNSに上げてるんです。撮影し、喜んでアップし、戦果として自慢として世界にアピールしている。どうなっているんですかね、この人たち。

この連中、いったいどんな人たちなんでしょう。ハマスと言われる人たちです。
ハマスはイスラム原理主義のテロ集団です。日本も含めて多くの先進国で、テロ組織として認定されているグループで、これがガザ地区を実効支配しているんですね。

ガザ地区から乗り出してやっているこの暴挙、私は今日Yahooニュースで今までの時系列を見ていたのですが、それらのニュースの解説を見ていくと、「ハマスのテロリストがやっていることは確かに悪いが、元々彼らがそうせざるを得なくした原因をイスラエルが作っているからではないか」というようなことを、いわゆる中東の専門家と言われている人たちがいっぱい言ってるんですね。

例えば、高岡豊（たかおか ゆたか）という人。プロフィールに中東の専門家と書いてあって、上智大学で博士号を取り、中東問題の専門書を何冊も出版している方なんですが、この方のコメントはこんなんですよ。
「ハマスが先に手を出したというストーリー作りが進んでいます。長期間にわたり、イスラエル軍や入植者がパレスチナ人民を圧迫して、挑発を続けて来た実体を無視してはなりません。相手が先に暴力を振るうように仕向けるため、暴力とは認定されない形で、執拗に挑発や嫌がらせを繰り返すという場面は、我々個人の生活でもよく見かけることです。そういう場面を想像しましょう。」

テロリストの肩持ってどうするんですか！この人だけならいいのですが、イスラエルへのテロ攻撃のニュースに色んなコメントが712件ある中で、彼のこのコメントが5169件の ”いいね”。一番 ”いいね！”。つまり、この意見に賛同する人たちが日本国民の中にたくさんいる。というか、それが常識になっている。
偏った中東情報を聞き続けることによって、「イスラエルは悪者。ハマスは虐げられている者たちの代表者で、やむにやまれず正当な行為をしているのだ」というような考え方が定着しているので、はっきり言って気色悪いんです。

ガザ地区のことについて簡単にお話しさせてほしいんですが、イスラエルは占領地をいくつか持ってました。いつ持つようになったのか。なぜ持つようになったのか。好き好んで持つようになったんじゃないんです！

1967年に第3次中東戦争が勃発しました。これはイスラエルの周辺国家、特にエジプトを中心としたアラブの国々がイスラエルを恫喝し、脅迫し、挑発し、扇動して勃発した戦争です。この戦争はイスラエルが短期間で圧勝したんですね。
たった6日間でけりが付いたので、”6日戦争” という別名が付いています。

この戦争で、イスラエルは占領地を持つことになりました。

戦争で勝ったので、相手が持っている土地を占領したんですね。どこの国でもあることですよ。その結果、ゴラン高原・ヨルダン川西岸・ガザ地区・シナイ半島を占領地として持つのですが、いいですか。
この 6 日戦争の直後から、イスラエルは戦争当事国に対して直接交渉を呼び掛けたんです。「交渉によって占領地返還の準備がありますから、交渉しましょうよ。」

イスラエルが提案した交渉内容は、ひと言で言うと「土地と平和を交換しませんか」ということです。「イスラエルは土地を返します。その代わり、あなたがたはイスラエルという国の存在を認めてください。そして、イスラエルと和平条約を結んで、戦争しないと約束してください。平和と土地を交換しましょう。Land for Peace で行きましょう。」

その結果、エジプトは 1979 年にイスラエルと和平条約を結び、シナイ半島がドーンと返って来たんです。シナイ半島って、イスラエルの全領域よりもはるかに広いんですよ。イスラエルは戦争で占領した土地を、自分の国の存在を認めてくれるということと引き換えにエジプトに返した。
そして、ヨルダンは 1994 年にイスラエルと和平条約を結び、領土問題については解決したんですね。

戦争で取った占領地を、こちらも多大な犠牲を払っているのに、交渉で気前よく渡すということは、第二次世界大戦後の世界の中で、イスラエル以外にはもう 1 例しかないんです。この 2 つの国だけが、戦争で勝った占領地を返したんですよ。

イスラエル以外のもう 1 つの国ってどこですか。アメリカです。
アメリカは硫黄島を、日本兵の死傷者を上回る 2 万 5 千人の死者を出して取った硫黄島を返しました。日本に。そして、5 万人近い犠牲を出して占領した沖縄を返還したんですね。
このイスラエルとアメリカだけですよ。第二次世界大戦後の世界で、戦争で占領した土地を返したのはこの 2 つの国だけです。他には無いんです。

イスラエルは気前よくそれを返した。なぜ？戦争したくない。
そもそも、なぜ占領するに至ったのかというと、その占領地がイスラエル攻撃の根拠地として活用されていたからなんですね。だから、戦争しないと約束してくれるんだったらそれを返します、ということだったんです。

では、ヨルダン川西岸とガザ地区をパレスチナ人に返すのか。
パレスチナ人には PLO という代表団体がありました。PLO は国じゃない。
国じゃないけど、PLO には PLO 憲章という、設立目的を書いた憲法のようなものがあります。それを読むと、イスラエルを全滅させることが PLO 憲章の肝なんですね。だから、それをもうやめてくれと。
「あなたがたが武力闘争を放棄するなら、ヨルダン川西岸の大半とガザ地区を返します」ということで交渉しようとしていたのですが、武力闘争を放棄しなかったんです。

なぜパレスチナ問題が解決しないんですか。イスラエルが虐めたんですか。
違うでしょ。そうじゃなくて、パレスチナ側で、ハト派の政治家が出ると殺されて来たんです。タカ派になってハト派が殺されて、誰が本当の代表者なのかが分からないんですね。それで武装闘争がずっと続いて来たんです。
他の国はイスラエルと和平条約を結ぶことで、ちゃんと占領されていた土地が返って来たんです。ところが、武装闘争をやめようとしないので、パレスチナ問題が解決しなかったということですよ。

しかし、遂に時期がやって来ました。事態が動き出したのが 1993 年です。
武装闘争なんぼ続けてても、パレスチナ（PLO）はイスラエルに勝てない。
武装闘争続けている限り問題解決できないんだ、という考えにとうとう到達したのが 1993 年です。

そして、オスロ合意があって、イスラエルに対する武力闘争を放棄すると約束したので、イスラエルは PLO の主流派ファタハを交渉パートナーとして認めました。
そうして出来たのがパレスチナ自治政府です。
パレスチナ自治政府は、イスラエルをもう攻撃しないと約束したので、ヨルダン川西岸の大部分とガザ地区を返還したんです。それが 2005 年です。

ところが、事件が起こったんですね。それから 2 年後の 2007 年になると、ガザ地区の中で、パレスチナ自治政府の代表である PLO ファタハと、イスラム原理主義過激派ハマスが、同じパレスチナ人同士であるにも拘らず激突したんです。
テロ戦争というか、クーデターというか、内輪揉めというか、もう流血の凄まじい戦争が始まった。その結果、ハマスが勝ったんですね。

ハマスが勝ったら、ファタハの人たちは次々処刑されました。彼らは恐怖に駆られて、イスラエルに「助けてくれ！」と。イスラエルはハマスに拷問されて大きな傷を負った人たちを救出し、病院に連れて行って手当てしたんですよ。
結局この PLO ファタハは、ハマスがガザ地区を牛耳った後に駆逐されてしまったんですね。その結果、ハマスの考えに基づくエリアに変わってしまいました。

ファタハにファタハ憲章があったように、ハマスにもハマス憲章があって、その内容がもう長いんです。ネットで全文を日本語に翻訳してくださった学者がいるんですけど、簡単に言うと、「イスラエルを全滅させること。そして、パレスチナ全部をイスラム原理主義にすること。」これが第一段階。

第二段階は、アラブ世界の中に、生ぬるいイスラム教国がたくさんありますよね。
イスラム教を国教にしているけど、生ぬるいイスラム教国がたくさんある。
そんな「生ぬるいイスラム教国を、ハマスのような原理主義のイスラム教国家にする！」これが第二段階。

第三段階は「全世界をイスラム原理主義に基づく国家体制に変えてしまう。」
これが最終ゴールですよ。

その手始めとして、まずイスラエルを全滅させることが、ハマスが掲げている憲章です。それに基づいて、彼らはテロをしているわけです。

イスラエルが占領地を持っている時は、「占領地を持っているからパレスチナ問題が解決しない」と言われたんですよ。
その占領地を返した結果、平和になりましたか？！なってないじゃないですか！
返した占領地は、テロの根拠地として悪用されているじゃないですか！
だからこそイスラエルは今回、このテロ組織の撲滅に本格的に乗り出そうとしているんですね。

それで絶対出て来る意見は、火を見るよりも明らかですよ。”喧嘩両成敗” です。
「ハマスはイスラエルの領域に入ってテロをやった。これを非難するのなら、イスラエルがハマスの支配するガザ地区の中に入って行って、空爆したり戦車を入れたりするのも同じじゃないか。」

同じなわけ、ないじゃないですか！
イスラエルという国は独立国家です。国連にもちゃんと認められてるんです。
独立国家には自国の国民や領土を守る自衛権があるんです。自衛権が侵犯された時、そのテロ組織に反撃することは、国家として認められている権利ですよ。

しかし国連憲章のどこ見ても、”テロリスト組織が、自分の政治的主張を通すためにテロを行うことを権利として保証する”、そんな国際ルールはどこにも無いんですね。

ハマスがやっていることとイスラエルがやっていることは次元が別で、この中東の専門家かなんか知らんけどね、ムチャクチャな論理ですよ。
このムチャクチャな論理に一番 ”いいね” が付くというのは、ミスリードする間違った意見によって、日本国民が間違いの中にいよいよ入って行くことになり、ひいてはイスラエルを憎む考え方が、日本国民の中にどんどん浸透してしまうのではないかと思うんですね。

イスラエルを祝福する者は祝福され、イスラエルを呪う者はのろわれる。
今のマスコミや中東専門家の多くが伝えていることを黙って聞いてたら、嘘でも100 回聞いてたらホンマかなと思ってしまいますから、うかうかと聞いてられない。やはり、ファクトによって検証していく必要があると思います。

そして、今回のことで私が 1 つ考えていること、閃いているというか気づいたことがあるんですよね。それは、”世界は一瞬で変わる” ということです。
コロナの時もそうです。コロナの前後で世界は別世界です。
ウクライナ戦争の時もそうです。ウクライナ戦争の前後で、世界も経済も全然違いますよね。そして、イスラエルのような安全保障の意識が高い国でも、一瞬で一般市民が何百人も連れ去られたり、国の中枢部でテロリストが大暴れするような出来事が起こるんですね。

世界は一瞬で変わり得る。そのテンポがこの終末時代、ますます早くなっている気がするんです。そのようなわけで、この終末時代にこそ正しい情報に基づき、また揺るがない歴史観・聖書の歴史観で世界を見ていくことが、いよいよ大切になって来たと思います。

今日は少し早口になりましたが、皆さんのご参考になれば嬉しいです。
チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。
皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！
.。o○.。o.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○.。

☆引用；新日本聖書刊行会『聖書　新改訳 2017』いのちのことば社，2017